

平成 25 年度 事業報告

岡山理科大学

理論研究と応用技術を密接に関連させることにより、創造能力の開発を目指す実践の教育を理念とする。



岡山理科大学は1964年に理学部の単科大学で設立され、来年度に創立50周年を迎えます。大学の歴史の中で、成長期に構成員となった教職員が定年を迎える時期でもあります。これらを契機として、次の5カ年の中期計画を掲げます。

1. 方針：地方都市に位置する岡山理科大学としては、次なる50年を迎えるために、傑出した特色を持つ必要がある。その方向は、「特色ある研究」と「充実した教育」であり、広い視野を持つ自主・自律の学生を養成します。
2. コンセプトの確立：教員の入れ替わりは、学科の方向性を変えることができる重大な契機です。学生や社会のニーズ、学会の動向などを勘案しつつ、学部・学科のコンセプト確立を行い、必要であれば再編します。
3. 研究環境の整備：基盤整備事業への選定など、研究環境の整備は充実しつつありますが、今後とも重点課題として位置づけます。これとともに教員および大学院生、学部学生などの研究指向・能力を高める体制を構築します。
4. 教育システムの充実：本学の高等教育施設としてのスタンスは、高いレベルでの「研究に立脚した教育」であり、建学の理念にも示されているように、入学直後からの科学者・技術者としての教育と同時に社会人としての教育が行われなくてはなりません。この体制のさらなる改善を行います。
5. 自己点検システムの確立：本年度は認証評価が実施されます。今後、自己点検のシステムを常時的なものとし、PDCAサイクルを実質的なものとしします。
6. 社会貢献：岡山理科大学は社会における役割を自覚し、地域貢献事業を積極的にを行い、研究成果および優秀な人材の供給によって広く社会に貢献します。

岡山理科大学 学長 波田 善夫

教学の充実

■学生支援の充実に向けて

平成24年度に学生支援の基本方針を定めましたが、平成25年度は、この基本方針に基づいて「修学支援」、「生活支援」、「進路支援」に関する方針を検討しました。今後は各方針を決定しさらに学生支援の方策を検討・実施し、学生支援の充実を目指します。

■自己点検評価

平成25年度に大学基準協会の大学評価を受審しました。10月28日、29日の実地調査を経て、12月に大学基準協会の大学評価委員会より評価結果として正式に適合の通知がありました。

■学生の多様なニーズへの対応

新入生の学力や履修科目の多様化に対する教学面の課題に取り組みました。入学式直後に実施する学力多様化度調査の方法を改善し、入門科目が効果的に機能するよう指導の充実を図りました。また、平成25年度は、聴覚や視覚に障がいのある学生を受け入れました。障がいのある学生達が充実した学生



生活を送れるよう、環境整備、修学支援、生活支援に取り組みました。

■新入生オリエンテーションの充実

工学部の2学科において一泊研修に替わる新たな取り組みとして、2日間のグループワーク「自己の探求」を学内にて実施しました。このグループワークにより、自己を知り他者との違いを理解することで、学生の修学意欲を高め、チームビルディング力の向上を目指しました。

■共通教育科目の充実

平成25年度入学生を対象に、キャリア支援科目「学びの基礎論」、「地域フィールドスタディ」を新たに開講しました。大学で学ぶ意味や地域社会において学問が果たす役割について学び、「人間力」の向上を目指しました。また、英語教育においては、英語論文の概説・書き方や学会におけるプレゼンテーション指導といった専門教育に接続する教育や、基礎力養成を目的とする英語クラスの設定を行いました。



■外国人留学生の受け入れ

平成25年度はアラビア語圏から初の留学生となるサウジアラビアの留学生受け入れました。また、秋入学のための学部留学生入試を実施し、学部にて4名の秋入学生を受け入れました。これらの留学生に対して修学面、生活面での支援を行いました。また、平成26年度より学期名称を「春学期」、「秋学期」に変更するため、学則等の整備を行いました。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD講演会、授業アンケート、学習と生活に関するアンケート、FD・SDカフェ、授業公開などFD・SDへの取り組みを昨年度に引き続き実施しました。平成24年度に大幅改訂した授業アン

ケートに関しては、実施結果の意見を反映し集計結果の表を追加しました。

■教員採用試験の支援

平成25年度の教員採用模擬試験、OB・OGの受験報告書の閲覧、教育委員会への直接照会などさまざまな方策で、教員採用試験合格に向けた支援を行いました。昨年度より採用人数が減少し、教員採用試験現役正規格格者は述べ23名、既卒者を含む正規格格者は述べ89名でした。

■学生寮の改革

日本人学生寮と留学生寮の区別を取り払い、日本人学生と留学生が同じ寮で共生し、コミュニケーションを取り合えるようにしました。このことにより、日本人学生にはグローバルな視点を持たせ、留学生には日本の習慣の理解と日本語能力を向上させることができました。また、寮生が寮の運営に主体的に関与する制度を構築し、寮生の自主性や協調性を養うことができました。

文部科学省選定事業

■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史

平成23年度に理学部が申請し、採択されました。補助期間5年計画の3年目の取り組みを行いました。また中間報告を提出しました。

地球、惑星の過去の環境変動を調べることは、その変動の中をどのように人類や生物が生き抜き、進化してきたか、という我々の過去を知ることです。このことは、将来における地球の環境変化を予測し、いかに対応していくべきであるかを知るためにも重要な課題です。

テーマ1：新しい物理的・化学的測定手法による地球環境変動評価

テーマ2：鉱物微少領域に記録された年代情報の解明、年代測定手法の高精度高精度

度化、及びその応用

テーマ3：新たなルミネッセンス手法による隕石の宇宙鉱物学的研究及び衝撃変成過程の定量評価

研究者数：8名

代表者：理学部 応用物理学科 教授 豊田新

事業期間：平成23年度～平成27年度（5年間）

2. グリーン元素科学

平成21年度に理学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の最終年度の取り組みを行いました。



文部科学省は国の第3期科学技術基本計画の一環として「元素戦略プロジェクト」を進めており、「環境問題と希少元素資源の枯渇に対処するための研究」というテーマのもとに共同で研究するための組織が「グリーン元素科学」です。

テーマ1：汎用元素による新機能創出

テーマ2：元素のハイブリット化による新物質創出

テーマ3：生体物質を利用した省元素資源

研究者数：17名

代表者：理学研究科 教授 森重 國光

事業期間：平成21年度～平成25年度（5年間）

3. QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成

平成24年度に工学研究科が申請し、採択されました。補助期間5年計画の2年目の取り組みを行いました。

生活支援機器や環境改善によりQOL（Quality of life 生活の質）を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組み、ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションの両者を駆使する革新的な研究開発の拠点を形成しました。

テーマ1. 生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2. 環境改善によるQOLの向上

研究者数：18名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

事業期間：平成24年度～平成28年度（5年間）

4. 申請計画

平成25年度は「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に1件申請しました。

【不採択】

■産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

取組名称：産業界との連携による中国・四国地域人材育成事業

取組内容：中国・四国地域の18大学と中国経済産業局、四国経済産業局、中国経済連合会及び四国経済連合会をはじめ自治体、各県経営者協会、経済団体等が緊密な連携のもとに、大学教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成の体制を充実させることにより、中国・四国地域の振興・活性化に資することを目的としました。

補助期間3年計画の2年目の取り組みを行いました。

テーマ1：キャリア系授業科目の改善・充実

テーマ2：評価・指導方法の改善・充実

テーマ3：フィールド系教育の改善・充実

取組担当者：工学部 教授 滝澤 昇

事業期間：平成24年度～平成26年度（3年間）

■平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業

文部科学省は、平成25年より「大学力」の向上を目的とした、大学改革の基盤充実を図るための經常費・設備費・施設費を重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」を実施しました。

その取組の中の設備の補助として「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」を2件申請し、採択されました。

①タイプ名称：タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」

事業担当者：教育開発支援機構

機構長 豊田 真司

事業内容：ラーニングコモンズのためのインタラクティブディスプレイ・什器等の整備

②タイプ名称：タイプ2「特色を発揮し、地域の

発展を重層的に支える大学づくり」

事業担当者：教養教育センター

センター長 西村 次郎

事業内容：地域との連携拠点におけるアクティブラーニングのための電子黒板等の整備

産官学連携

■外部資金の獲得

科学研究費補助金等の競争的研究費補助金、共同研究や受託研究等の外部研究資金の獲得を推進しました。外部資金に関する情報収集に努め、説明会等を開催し、外部資金の獲得を目指しました。

■公的研究資金不正使用防止

公的研究資金の不正使用防止のため、ガイドラインの周知や獲得者への研修会を実施しました。不正防止計画の整備をし、周知しました。また、公的資金で購入した物品の検収を行いました。

■知的財産化

1. 発明の知的財産化

研究者の職務発明を知的財産化することを目指し、職務発明審査委員会を通じて発明の発掘、特許権利化に努めました。また、知的財産の技術移転を図り、産業活用に繋げるとともに、研究の推進に役立てました。

2. 特許セミナー

知的財産権セミナーを3回開催し、研究者および学生の知的財産の理解のための研修を行いました。

■産業界との交流の活発化

地域産業界との交流行事に参加し、地元企業との連携を深めました。

1. 岡山県主催の「100社訪問」等の行事に参加し、地元企業との交流に努めました。
2. (株)日本政策金融公庫ビジネス交流会に参加しました。

3. おかやま信用金庫主催のビジネス交流会に参加しました。
4. 岡山市(岡山工業会・SEO等)等県内市町村とのビジネス交流会に参加しました。
5. トマト銀行をはじめ協定を締結した団体等との交流を実施しました。
6. 各種企業・異業種交流会等に参加し、産官学連携活動の広報活動を積極的に行いました。
7. 本学の紹介を兼ねて官庁や産業界からの見学依頼を受け入れました。

■大学間の交流

前年度に引き続き、大学コンソーシアム岡山の会長校を担当しました。会長校として県内16大学のもとにある大学教育部、社会人教育事業部、産官学連携事業部を中心に大学連携を通じて岡山の活性化を目指しました。平成23年度に終了したGP事業『「岡山オルガノン」の構築』に関する事業もこの会にて継承して実施していました。会長校として任期2年が終了しました。

■外部団体の委員等として協力

岡山県、および地方公共団体等の委員会等に委員として参画しました。各委員会を通じて、産業界や官公庁への情報提供や連携を深め、社会貢献に努めました。

■委託公開講座

岡山県からの委託による生涯学習大学講座(専門教養コース)を開講しました。(8月~9月)

■研究成果の社会への発表について

1. 発表会の開催と参加

OUSフォーラム2013を11月に岡山市内で開催しました。著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等を行いました。今年で13回目を迎えました。その他に東京等で開催される研究発表会で研究シーズを公開しました。

- 1) 「OUSフォーラム2013の開催」
(11月22日:岡山)

2) JST 科学技術振興機構「新技術説明会」での
発表 (11月 7日:東京)

3)「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」
(3月 4日:岡山)

2. 広報活動の実施

本学の研究成果を社会に周知することを目的に冊子「リエゾン」を発行し、広く配布しました。ホームページの運営等を通じ、積極的に研究内容の発信に努めました。



■(株)林原との学術交流

本学は、平成24年度、(株)林原メセナセンターと学術交流協定を、(株)林原と化石標本利用の覚書を締結しました。平成26年4月には生物地球学科に「恐竜・古生物学コース」を開設予定であり、地質学および古生物学の分野を中心に学術交流を進め、(株)林原および林原自然科学博物館が所有する標本を有効利用することにより教育・研究の充実を図りました。

■モンゴル科学アカデミー古生物学研究センターとの研究・教育に関する協力連携協定

平成25年10月に、モンゴル国における古生物学および地質学に関する研究と教育の連携協力を推進するため、モンゴル科学アカデミー古生物学研究センターとの間で「共同古生物学研究・教育の相互協力に関わる協定」を締結しました。

生物地球学科は、平成26年度より日本で初の「恐竜・古生物学コース」を新設し、古生物学の中でも恐竜に焦点を当てた教育、研究を進めました。協定を締結することにより、今後、古生物学および地質学に関する研究と教育の発展が期待されます。これにより、より質の高い教育・研究を学生に提供し、社会に貢献することが期待できます。

本協定の締結にあたり、(株)林原との間で、双方合意するものについての研究事業移管の覚書も締結されました。

学科・コース等新設

■総合情報学部情報科学科コース制導入

総合情報学部情報科学科に3つのコースを設置しました。

デジタルメディアコース

ICTの集大成ともいえるゲーム分野に着目し、応用されている映像や音声処理技術や様々なデバイスを活用する技術を学びました。

Web・モバイルコース

Webの仕組みからWebアプリの開発に関する学習や、急速に伸び行くモバイル情報機器のソフトウェア開発に関する技術を学びました。

情報数学コース

情報の基礎となる数学を学び、統計や数値解析などコンピュータを活用することで、より実用的な応用を学びました。

■総合情報学部社会情報学科「情報処理コース」新設

総合情報学部社会情報学科に、「情報処理コース」を新設しました。同コースでは、ビジネスに必要な情報処理技術や、データ解析やデータベースなどの情報処理方法を学びました。経営に必要なマーケティングデータの解析や、社会調査など、文系分野での情報処理能力が、今後ますます必要になることから、従来の「経営・経済コース」「法政・社会コース」「歴史・文化コース」の3コースに追加し、学科の充実を図りました。

平成26年度に向けて

■学内整備工事

第一学舎、第1号館、第10号館等の老朽化に伴う学内整備工事に取りかかりました。平成25年度

は、第一学舎の一部解体、第三学舎・第六学舎の解体、道路整備等を行い、平成26年の新1号館着工に備えました。

新1号館は延べ床面積約27,000㎡、地上11階、地下1階の規模です。学長室・事務局長室・講義室・マルチメディア教室・実験室・研究室・実習室・学生食堂・学生控室・ラーニングコモンズ・工作センター・大学事務局などを収容し、大学の新たな顔となる建物として平成28年度完成予定です。また、学内の教員養成課程の在り方を見直し、新1号館完成時に新たな課程を収容する方向で検討を進めました。

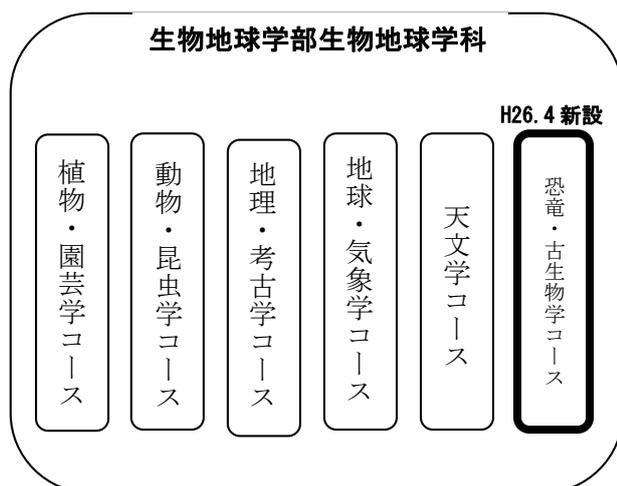
■大学創立50周年記念事業

岡山理科大学は平成26年度に創立50周年を迎えます。平成25年度は各学部代表者及び事務部門代表者で構成する『50周年記念事業準備委員会』が中心となり、学会・講演会等アカデミックなイベントを実施しました。

■生物地球学部生物地球学科定員増及び「恐竜・古生物学コース」の新設

生物地球学部生物地球学科では、平成26年4月より入学定員を20名増やし、「恐竜・古生物学」コース(予定)を新設しました。現在設置している「植物・園芸学」「動物・昆虫学」「地理・考古学」「地球・気象学」「天文学」の5コースから6コースへと学びの範囲を広げました。

【平成25年6月18日、収容定員増認可】



キャリア支援

■就職進路ガイダンス・各種セミナー

就職ガイダンスを3年次・修士1年次生に6回実施、4年次・修士2年次生に1回実施、計7回実施しました。また、マナーセミナー、メイクアップセミナー、業界セミナー、グループディスカッション、SPI、面接対策等各種セミナーを時期に応じて開催しました。

1年、2年次生の低年次向けガイダンスを年次ごとに数回行い、3年次生対象ガイダンスへスムーズに移行できるようにしました。

■就職筆記試験対策講座・公務員試験対策講座

就職筆記試験対策講座を3年次生対象に15回実施しました。また、2、3年次生を対象に公務員試験対策講座も実施しました。2年次生と3年次生対象の2年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コース、地方上級・国家一般職コースと入門講座の3コースです。3年次生対象の1年間コースは警察官・消防官・市町村などの地方教養型コースと地方上級・国家一般職コースの2コースです。



■学内会社説明会

学生に様々な企業や業界の研究をさせるため、年間約100社の会社の人事担当者を招き、学内会社説明会を随時開催しました。学内会社説明会を企画、岡山県産業労働部と共催して学内にて会社説明会を7月・10月に実施しました。

■合同企業説明会

学生が企業の採用担当者と面談する合同企業説明会を開催しました。この合同企業説明会には本学学生のために全国307社の企業の採用担当者が参加

し、約700名の学生が参加しました。また、企業人事担当者と教職員との情報交換の場として、就職懇談会を岡山・東京・大阪・広島の各会場で開催しました。

■就職支援マガジンの発行

進路や就職に対する、意識の充実・向上のため、就職支援マガジン「ME (MAGAZINE FOR EMPLOYMENT)」シリーズ、v o l . 0 ~ 4 を発刊しました。「ME」を各年次別のガイダンスで活用・解説しながら、入学時から一貫した指導を行いました。

■就活ダイアリーの発行

3年次の6月に就活ダイアリーを発行・配布し、採用試験・面接・ガイダンス日程などのスケジュール管理や、就活マナー・活動事前準備などの確認に活用できるよう指導しました。

■就職・進路懇談会

4年次生、3年次生とその保護者を対象に4月中旬に「就職・進路懇談会」を実施しました。各ゼミ担当教員と学生本人、保護者の3者が面談し、就職環境の現状を伝えるとともに、就職を含む進路、成績などの相談に応じました。

■学生カルテの充実

学生ひとりひとりとの面談記録、セミナー・ガイダンスの参加状況などの就職活動状況をシステムに登録し、教員とキャリアセンターが共有することにより、学生にとって最善のサポートを目指しました。

■適性検査の実施

大学が費用を負担し、1年次生と3年次生全員を対象に適性検査を実施します。検査後はフォローセミナーを実施し、自己理解を深め、自己をアピールできるよう学生の指導に努めました。

■業者主催合同会社説明会への無料バスの運行

3年生・M1生を対象に、就職活動が解禁となる12月以降、業者主催の合同会社説明会（大阪・広島）

行きの大学発無料バスを運行し、学生の就職活動開始に向けたサポートを行いました。

平成26年度入試

本学の入学者受入方針は、本学が持つ研究領域の学習を強く希望する受験生と、高度な研究を目指す受験生の確保でした。平成26年度入試では、早期入試で本学への入学意識を固めた生徒に対する、入学前のアドバイスや教育の強化を継続しました。また、受験生の立場に立ち、受験関係書類や入学関係書類の改訂を引き続き実施しました。

広報に関すること

募集広報と並行して大学広報を以下のように展開していきました。今年から大学創立50周年記念施策にも取り組みました。

■新中期戦略2年目

SCIENCE DREAM GARDEN をキーワードとし、これをフォローするフレーズとして「わからないことには夢がある」を導入し、大学の思想をしっかりと伝えていきました。



■科学っておもしろい！

理工系大学としての使命と考える「科学のおもしろさ」を伝える広報施策を展開しました。「ミニ図鑑」、「しおり」、「サイエンスレクチャー」、「クリスマスレクチャー」の継続に加え、HP「サイバラ」を活用し広域に情報発信を行いました。

■岡山理科大の研究力！

企業や一般の方々に対して、岡山理科大学の研究力を積極的にアピールしていきました。

人事・組織

■事務組織、附属施設の将来計画の検討

事務組織については、新1号館建設後の事務部門移動に向けて、更なる学生支援、教育・研究支援の充実を図るため、事務組織の改編を検討しました。

このことにより、教職員間、各部署間の連携を密にして、業務の質と処理能力の向上を目指しました。

また、附属施設については、9つある施設がそれぞれ有機的に結びつき、より効果的な教育、研究支援組織となるように、施設の将来計画を検討しました。

主な行事

4月2日	入学前オリエンテーション
4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
4月13日	就職進路懇談会
5月11日 ～12日	皐月祭
6月16日	オープンキャンパス
7月23日 ～8月2日	前期定期試験
8月3日 ～4日	オープンキャンパス
9月7日 ～8日 14日	教育進路懇談会（地方） 教育進路懇談会（本学）
9月12日	後期オリエンテーション
9月23日	オープンキャンパス
10月6日	AO入試 専門学校・総合学科特別推薦入試Ⅰ期
11月3日	特別推薦入試 専門学科・総合学科特別推薦入試Ⅱ期
11月16日 ～17日	推薦入試
11月21日 ～23日	半田山祭（大学祭）
11月22日	OUSフォーラム
12月15日	加計学園推薦入試
1月18日 ～19日	大学入試センター試験
1月30日 ～2月1日	一般入試前期SA・SAB方式
2月19日	一般入試前期SB・B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成25年5月1日現在)

研究科・学部・学科名	入学定員	入学者数	入学者数		収容定員	在学者数	在学者数		秋期入学 ※	
			留学生	社会人			留学生	社会人		
大学院	理学研究科(博士)	13	1		39	9				
	理学研究科(修士)	76	53		152	99		1		
	工学研究科(博士)	5	3	2	15	8	6	1		
	工学研究科(修士)	66	26		132	60	13	1		
	総合情報研究科(博士)	2	1		6	2		1		
	総合情報研究科(修士)	20	10		40	25	2			
大学院 計	182	94	2	0	384	203	21	4	0	
学部	理学部	応用数学科	95	124		370	460			
		化学科	70	90		285	328			
		応用物理学科	70	82		280	293			
		基礎理学科	75	91		300	368			
		生物化学科	85	99		340	414			
		臨床生命科学科	85	100		340	418			
	動物学科	40	46		160	194				
	理学部 計	520	632	0	0	2,075	2,475	0	0	0
	工学部	バイオ・応用化学科	75	97		300	362	2		
		機械システム工学科	85	111	2	340	416	12		
電気電子システム学科		70	85	3	280	309	11			
情報工学科		85	98	3	340	425	6			
知能機械工学科		55	59	6	225	212	16			
生体医工学科		60	57	2	240	216	22	1	4	
建築学科	70	89	9	215	231	14				
工学部 計	500	596	25	0	1,940	2,171	83	1	4	
総合情報学部	情報科学科	80	99		320	359	5			
	コンピュータシミュレーション学科 (募集停止)	—	—	—	—	—				
	生物地球システム学科 (募集停止)	—	—	—	140	181				
	社会情報学科	80	97	3	310	371	18			
建築学科 (募集停止)	—	—	—	90	50	3				
総合情報学部 計	160	196	3	0	860	961	26	0	0	
地球生物部	生物地球学科	100	120	1	200	241	1	1		
	地球生物部 計	100	120	1	200	241	1	1		
学部 計	1,280	1,544	29	1	5,075	5,848	110	2	4	
総合計	1,462	1,638	31	1	5,459	6,051	131	6	4	
理学部理学専攻科	30	0			30	0				
教職特別課程	50	15			50	15				
留学生別科	60	7	7		60	7	7			

※ 秋期入学については、5月2日以降(平成25年5月2日～平成26年3月31日)に入学した者です

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成25年度)

区分	修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	2	2	2	100%	0	0	0	4
	修士	86	70	62	89%	9	6	4	6
学部	1,207		936	815	87%	139	212	103	410
教職特別課程	14				100%	0	1	0	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数(平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株) (株)百十四銀行	(株)クラレ (株)天満屋	西日本旅客鉄道(株) 日亜化学工業(株)	日本生命保険相互会社 中国電力(株)	他
-------	------------------------	------------------	-------------------------	-----------------------	---

■教職員数

(平成25年5月1日現在)

理事長・総長	学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	1	2	160	69	29	4	2	1	1	270

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	197	113

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

年度 科目	25年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	8,773,196	8,426,430
補助金収入	922,577	1,257,615
その他収入	754,205	635,681
帰属収入合計	10,449,979	10,319,726
基本金組入額合計	△ 270,796	△ 645,233
消費収入の部合計	10,179,183	9,674,494
人件費	5,274,855	5,243,782
教育研究経費	2,721,719	2,650,071
管理経費	532,600	540,731
その他支出	314,752	126,083
消費支出の部合計	8,843,927	8,560,667

事業名	金額
第一学舎4階講義室改装工事(学友会)	2,540
第10号館1階事務室改装工事(学友会)	392
第8号館1階学生控室改装工事(軽食堂)	9,900
スカイラス1階食堂改装工事(グラントキッチン)	3,650
第17号館2階コンピュータ実習室扉取替及び入退出管理システム設置工事	1,528
第15号館2階トイレ改修工事	7,571
新建物関係構内道路工事(仮設)	82,605
東門A敷地駐輪場増設工事	6,200
東門B敷地駐輪場増設工事	3,400
笹ヶ瀬キャンパスサッカーコート北側エリア排水側溝設置工事	3,100
第7号館北側落石防止フェンス設置工事	330
新建物建築費(実施設計・監理料)	40,000
新建物建設予定地地歴調査及び土壌調査	7,224
新建物建設予定地土壌詳細(深度)調査	5,145
第一学舎取り壊し工事(1期)	17,661
第三学舎取り壊し工事	24,129
第六学舎取り壊し工事	39,421
軽食堂等プレハブ取り壊し工事	1,168

■施設設備整備計画(抜粋)

40年を経過し老朽化が目立つ建物、施設については、建て替えを実施するとともに、改修工事を行いました。

また、装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器や改組新設した学科の設備等を計画に基づき整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
里道・農道(岡山市)購入(新建物建設地)	13,846
新建物関係インフラ整備工事	238,839
第一学舎取り壊し工事後補修工事	3,440
津島東研修館改装工事	3,066
第一学舎4階講義室改装工事(留学生別科)	420

主な装置・設備関係

(鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史事業による大型機器)

事業名	金額
赤外顕微システム (補助金決定額：13,440)	20,160

(ICT活用推進事業における整備事業)

事業名	金額
岡山理科大学ネットワーク災害対応再整備事業 内訳：敷設工事分 (61,750) 装置購入分 (3,237) [平成24年度補助金決定額：30,854]	64,987

(私立大学等教育研究活性化設備整備事業)

事業名	金額
ラーニングcommons設備一式 (補助金決定額：8,111)	8,526
シーカヤック一式 (補助金決定額：4,660)	4,660
電子黒板教育システム一式 (補助金決定額：2,205)	2,205
生物顕微鏡・実体顕微鏡一式 (補助金決定額：1,905)	1,905

(その他の大型機器)

事業名	金額
サイバーキャンパス連携情報教育支援システム2013	20,149

主な届出・申請関係

事業名	金額
生物地球学部 機器・器具 (創設費)	4,869
生物地球学部 図書・雑誌 (創設費)	42
グリーン元素科学共同研究	52,760
鉱物の物理化学特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史共同研究	17,940
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	39,894